

ほ場間の生育のバラツキが大きい！茎数確保を最優先！ 有効茎数確保後は速やかに中干しを実施し穂肥の準備！

6月18日現在の生育は、草丈は平年より長く、茎数はほ場間の差が大きく、葉数は平年並～やや多く、葉色は平年並～やや濃い状況となっています。

効果的な穂肥を行うためには、中干しを行い穂肥がしっかり行える稲姿にすることが重要です。生育に応じた適切な水管理で有効茎数を確保し、速やかに中干しを実施しましょう。

生育状況（6月19日現在、西置賜農業技術普及課生育診断圃）

平坦部「はえぬき」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	39.8	114	長い
茎数(本/m ²)	444	109	多い
葉数(枚)	8.3	±0	並
葉色(SPAD)	44.3	+4.1	濃い

「つや姫」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	40.8	114	長い
茎数(本/m ²)	493	124	多い
葉数(枚)	8.7	+0.7	多い
葉色(SPAD)	40.9	+1.2	やや濃い

「雪若丸」の生育

項目	飯豊町		概況 (指標値との比較)
	調査値	指標比・差	
草丈(cm)	39.5	123	長い
茎数(本/m ²)	642	140	多い
葉数(枚)	9.5	+1.4	多い
葉色(SPAD)	47.3	+4.3	濃い

1か月予報（6月17日 気象庁発表）

気温：6/19～6/25：平年並か低い見込み
 6/26～7/2：高い見込み
 7/3～7/16：ほぼ平年並の見込み
 降水量：ほぼ平年並の見込み
 日照時間：ほぼ平年並の見込み

茎数が不足しているほ場は茎数確保を優先！

○茎数が不足しているほ場では、引き続き以下の2つの管理で分けつを促進し、6月中に有効茎数を確保するように努めましょう。

① 浅水管理（水深2～3cm） ② 昼間止水・夜間かんがい

○依然として、土壌の還元が進んでいるほ場がみられます。**異常還元（ワキ）で、生育が停滞し、葉色が低下しているほ場では、速やかに水の交換や一時的な落水（2～3日の田干し）**を行います。茎数が不足している場合は、水交換または夜間のみの落水とします。

○除草剤散布後7日間は落水せず必ず止水としてください。

○管内でかんがい用水の間断通水が実施されています。水口と水尻をもう一度確認し、**かけ流しは行わず、節水を心掛けましょう。**

有効茎数確保後は、直ちに作溝・中干しを開始！

- 高温が続いたことにより、多くのほ場で生育が早まっています。
- 穂肥の前に、生育を制御、根張りの促進**を図り穂肥がしっかり行える稲姿にしていきます。
- 有効茎数を確保したら、**遅れずに作溝・中干し**を行いましょう。
- 作溝は作土が「ようかん状」の硬さで行い、作土がしまってから再度実施すると作溝の効果が高まります。
- 中干しの目安はほ場に小ヒビが入る程度**です。葉色や生育量に応じて中干しの強度（乾き具合）を調節します。
- 中干し後は、走り水で飽水管理をした後に、徐々に間断かん水（2日湛水・2日落水）に切りえます。

品種別の目標茎数の目安（本/株）

品種	1株当たりの目標茎数	
	70株/坪植えの場合	
はえぬき	23本	
つや姫	20本	
雪若丸	27本	
ひとめぼれ	24本	
あきたこまち	22本	
	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	23本	20本

【作溝・中干しの効果】

- ◎無効分けつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化 → 登熟向上、倒伏軽減
- ◎間断かんがいの効率化 → 地耐力の向上、節水効果

葉いもちの本田初確認早い！早期発見・早期対策を！

- 県内で平年より6日早く葉いもちの初発生が確認されています。
- 穂いもちを抑える一番の対策は葉いもちを発生させないことです。稲をよく観察し、早期発見・早期防除を心掛けましょう。



葉いもちの病斑

斑点米カメムシ類の発生がやや多い！（県病害虫防除所予察状況）

- 畦畔・農道、雑草地の除草（草刈り）を地域ぐるみで行い、地域全体の斑点米カメムシ類の生息密度を下げましょう。
- 水田内のイヌホタルイやノビエはアカスジカスミカメの発生源になります。残草対策もしっかり行いましょう。



アカヒゲホソミドリカスミカメ アカスジカスミカメ

農作業事故と熱中症に要注意！ 声をかけ合い農作業事故ゼロへ！

複数人での作業実施、施設や道具の点検、転落防止のための対策などを徹底しましょう。また、こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった無理のない作業を心掛けましょう。

山形県農薬危害防止運動 実施中！ 農薬使用の際は使用基準を再確認！